

尿の量が増えたり、食欲が増加  
したのは、副腎皮質機能亢進症が  
原因かもしれません。



犬の副腎皮質機能亢進症の検査をご紹介します。

# 血中のコルチゾール濃度を測定する検査

どんな検査ですか？

- 副腎皮質からどのくらい過剰なコルチゾールが分泌されているのかや、どこが原因でコルチゾールの分泌量をコントロールできないのかを確認する検査です。
- 血液を採取して血中コルチゾール濃度を測定しますが、目的に応じていくつかの異なる方法があります。  
その他の内分泌疾患を併発していることもあるので、総合的な検査による診断が重要です。



## 血液はどうやってとるの？

- 検査のための薬剤を投与し、その前後の複数回血液を採取しコルチゾール値を測定することが一般的です。そのため、検査に時間がかかることもあるので、事前に動物病院に確認してもよいでしょう。

## 副腎皮質機能亢進症と診断されたら？

- 自然発症の場合は投薬による内科的治療が一般的です。
- 薬の効き方には個体差があるため、個々の状態にあわせた慎重な薬用量の調節が必要になります。獣医師の先生の指示にしたがった定期的な血液検査によるモニタリングが非常に重要です。



## 副腎皮質機能亢進症ってどんな病気？

- 中年以降で発生が増加する内分泌疾患で、クッシング症候群ともよばれます。副腎から分泌されるコルチゾールが過剰になることで様々な症状を示す疾患です。  
多飲多尿、食欲亢進、左右対称の脱毛などが良くみられる症状です。
- 自然発症の原因としては、下垂体腫瘍と副腎自体に問題がある場合のふたつがあり、前者が多くみられます。  
その他にステロイドの長期投与による医原性の場合もあります。
- 血液検査、画像検査等により原因を確かめます。